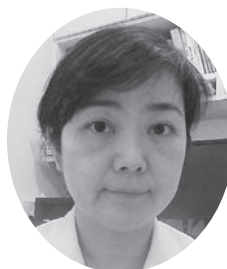


地元で開業して



岡澤ひろみ

屏風浦皮膚科
(横浜市磯子区)

平成25年5月に、京急屏風浦駅から環状2号線の広い道路沿いに海の方へ3分ほど歩いた所で開業いたしました。海へ、といっても今では海の気配は感じられませんが、屏風ヶ浦の地名は源頼朝が海からの眺めを屏風のようにと絶賛したことに由来していると言われています。私の祖父がこの地に居を構えた昭和の始めは、国道16号は海沿いを走り、遠浅の海では海苔の養殖が行われ、漁師の家が立ち並び、料亭や生糸貿易商の別荘が散在する漁村だったとのこと。やがて国道16号上の市電は姿を消し、根岸線の磯子駅ができ、さらに大船方面に延長し、汐見台団地の造成と海の埋め立てが行われ、工場が建てられ、海岸線はすっかり遠くなりました。

屏風浦駅は、大きく発展した上大岡の隣の、各駅停車しか停まらない駅です。駅前には銀行もコンビニも商店街らしきものもなく、スーパーも1軒しかありません。屏風ヶ浦病院(横浜なみきリハビリテーション病院に改称)も平成24年9月にリハビリ病院として金沢区並木に移転してしまいました。そんなちょっと不便で、賑わい感の乏しい静かな町ですが、生まれ育った愛着のある地で、自宅の隣の空き地を利用して開業医として新たなスタートをいたしました。

開業して間もなく1年となります。地元開業の利点を挙げますと、

- ・母や叔父、叔母の幼なじみのお年寄りが来院して昔話をしてくれます(私自身は幼稚園の時から都内まで通っていたので地元で幼なじみは残念ながららいとこ以外ひとりもおりません)。
- ・診療中に愛犬のモモちゃん(ラブラドルです)の吠えちらしている声が聞こえ、心が安らぎ(乱され?)ます。

・行きつけのスーパーで患者さんに良く出会えます(診察室では賛否あると思いますがマスクをしています。そのため顔はよくわからないはずなのですが、なぜかばれてしまいます。体型の問題でしょうか?)

・なんとといっても通勤が非常に楽です。あつという間です。ただ、今までは通勤の行き帰りの車の中で、バロック音楽のCDを楽しんでいたのですが、そのような気分転換の時間が持ちにくくなりました。

ところで屏風ヶ浦は母校横浜市立大学の附属病院と市民総合医療センターのちょうど中間あたりに位置します。開業後、明るくて誠実なスタッフ達に囲まれて日々ストレスなく診療していますが、勤務医時代と違いちょっと相談する相手が(後輩でもよいのですが)おらず、孤独です。あまり頼ってばかりでは申し訳ありませんが母校が比較的近くにあることを心強く思っています。

私は東京大学理学部物理学科を卒業し、数年の専業主婦業経験後、平成元年、一人娘が2歳の年に横浜市立大学医学部に入学いたしました。同級生には東京大学卒業生が数名おりました。市大卒業後は大学院に進学し直接皮膚科に入局しました。大学院の面接で中嶋弘教授に皮膚科専攻の理由の一つとして、「普通より遅れて医師になったので早く一人前になりたいから」というようなことを申しました。今から思えばよくそんな不心得者を入局させてくださったものです。大学院では長谷哲男先生にご指導いただきました。その後南共済病院に2年、横浜赤十字病院に3年勤務し、皮膚科臨床を幅広く学ばせていただきました。平成17年から8年間南共済病院に部長として勤務していた際も、困った時にしばしば大学に相談させていただき、池澤善郎教授、相原

道子教授をはじめ、多くの先生に大変お世話になりました。また近隣の開業の先生方にも多くの患者さんをご紹介いただき、大変勉強になりましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。しかし皮膚科は非常に奥深く、目の前に見えて触れることができるのに分からないことが多く、まだまだ一人前になれていません。医学部入学時2歳だった娘が精神科医として一歩を踏み出したその年に、開業いたしました。信頼して受診してくださる患者さんのため

にも、学会、勉強会への参加などを通じて研鑽していきたいと思います。

休診日の木曜日の午後月に2回、市民総合医療センターで微力ながら外来手術のお手伝いをさせていただいております。お世話になった教室に少しでもお返しできたらと思います。

今後ともご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

かものほし皮膚科の誕生

平成25年3月末の60歳定年を控えて、その後をどうするか悩んでいました。隣に住んでいる義父は85歳でまだフルに働いており、毎日大磯から東京まで通勤しています。私が60歳で隠居するわけにはいきません。60歳男性の平均余命は23年ですから、何もしないと退屈しそうです。年金も逃げ水のように60歳ではもらえなくなりました（最近気づいたのですが、雀の涙ほど振り込まれていました）。

横浜市南部病院に嘱託で残るという選択もありましたが、1年毎の契約で65歳までです。また、給料も毎年の勤務成績次第ということですが、最高で定年時の80%で、標準は50%です。医者はよほどでなければ80%もらえるとのことでしたが、病院幹部に対してもよくなければよくないとはっきり言ってきた私は50%に査定される恐れがあります。南部病院では、嘱託で残った医者は私の知る限りこれまで2人しかいませんでした。嘱託で残っても、65歳からどうするかをまた考えなければいけません。年齢が上がると病院ではつまらない会議（その月に開かれた30余の会議で決まった事を報告するだけの会議も始まりました）や書類書き（行動目標を書けと言われても、手術の患者が来なければ手術件数が増えるわけではない）が増えるのも、勤務医を「卒業」したほうがいいかなと思った要因です。



木花 光

かものほし皮膚科
(平塚市)

そんなわけで開業を決意しましたが、今までと全く違う道です。ノウハウがありません。開業コンサルタント会社の講習会に参加してみました。社長が講演したのですが、皮膚科も標榜すると患者が増えるので、皮膚科に少し見学に行って、ぜひ皮膚科も標榜してくださいとのこと。その会社は即やめました。

ある先生から、薬品会社の開業支援部社員を紹介していただき、物件探しから始まりお世話になりました。その社員も私と同年で、私を担当中に定年になり、嘱託で雇われたものの同じ仕事を続けているのに給料が半分になって、新人と同じになったと嘆いていました。まだ職があるだけましですがとも言っていましたが。医者で良かった。

開業するのも多大なエネルギー（金も）がいることがだんだんわかり、こんなことならパートだけ3～4ヶ所行ったほうがよかったかなと思ったこともありましたが、患者受けしそうな某先生でも（失礼！）開業したとたん、毎年ビジネスクラスで南の島に行っているというのを励みにして、開業までこぎつけました。心の支えの某先生、ありがとうございました。

60歳からの開業です。娘も医者ではないのでこじんまりと20坪で開業しました。手術もやりま

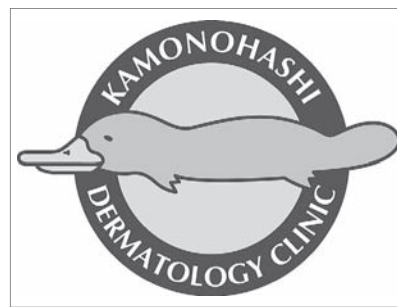
せんで、一番高い器械が電子カルテです。他にはナローバンドUVBの器械があるのみです。顕微鏡にはカメラをつけて、パソコンで患者さんにもPitzなどを見てもらっています。トータルで30万円の安いシステムですが、パソコン画面でくっきり見え、好評です。このためか、爪白癬を内服してでも治したいという患者が高率です。

歯科医だった実父は、私が大学1年の時に脳出血で突然死しました。子供たちの学費を稼がねばと開業してわずか数年で、53歳でした。コンビニより歯科医院が多いという今では考えられないですが、当時は歯医者不足で、患者が殺到したことによる過労が原因でした。幸い(?)、私のところには過労死するほどの患者は今のところ来ていません。呆けないよう細々と長く続けられたらと思っています。

よくある質問 なんで「かものはし」なんですか

オーストラリアに家族で9回旅行し、娘がカモノハシを大好きになりました。開業するなら、かものはし皮膚科にしてねと何年も前から言っていたので

すが、今回、そう決めたよと言うと、「パパ、あれは冗談だよ」と。ロゴマークのカモノハシの絵は



娘の作です。カモノハシって鳥ですよねとおっしゃった先生がいますが、哺乳類の中の単孔目(ウンコもオシッコもタマゴも同じ一つの孔から出ます)です。タマゴを生む原始的な哺乳類です。哺乳類なのに、鴨のようなくちばしを持つので、鴨の嘴と名前がつけられました。皮膚科との関係?あまりないでしょうね。

余談

私が書いた紹介状の患者を、病院で家内が診察した時に、私たちを夫婦とは気付かず、「かものはし先生にはこう言われました」と。家内は笑いをこらえるのに苦労したそうです。

開業8年目を迎えて

当院は平成18年10月に開業させていただき、今年で8年目を迎えます。当院は横浜駅西口から徒歩圏内の谷川ビル3階にあります。現在はヨドバシカメラとなった建物がその昔、三越デパートであったころから提携駐車場として知られていた、横浜駅の歴史を見守ってきたビルです。同じビルで開業されている先生をはじめ、近隣の先生方や優秀な薬剤師の先生に助けをいただきながら、病院にいるかのように恵まれた環境の中で仕事をしております。神奈川県医師会の先生方にも良くいただいています。

なぜこのような恵まれた環境で父は開業できたのでしょうか。父はわが道を生きている人です。周りの先生方にご迷惑をたくさんかけてきているかもしれ

菅原万理子

横浜西口菅原皮膚科
(横浜市神奈川区)

ません。でも人情に厚く恩師に対する感謝の気持ちを忘れない素敵な素朴で愛情深い人です。きっとそんな父の良いところを認めてくださったのでしょう。

谷川ビルの創業時から泌尿器皮膚科を開業されていた慶應義塾大学OBの土肥英雄先生が体調を崩され、閉院を検討されていたところに引き継ぎの打診を頂きました。奥様によると先生の遺品から父の新聞記事の切り抜きなどが出てきたそうです。ご自分の医院を父に継いで欲しいと思われていたのでしょうか。残念ながら、前職であるけいゆう病院の退職時期との兼ね合いで一度閉院していただき、同じ場所で新たに開院の運びとなってしまいました。現在も土肥英雄先生を

慕っていらした患者様が通院して下さっています。本当にありがたいことだと思っています。

開業当時、私は横浜市立大学の医局員で、1歳の小さな子供をひとりで育てて行く決意をした直後でした。どうやって生きていったらいいのか不安でしたが、大学の相原道子先生がいつも優しく温かく見守ってくださり、少しずつ大学の常勤勤務復帰を目標に頑張っていました。ところが人生なかなか予定通りにはいかないもので、院長である父が開業してすぐに体調を崩し、仕事ができなくなってしまったのです。まさか自分の父親が生死をさまようことになるとは思いませんでした。右も左もわからぬまま開業業務に突入し、父が20年拝見してきた患者様の診療を引き継ぐことになりました。初めの数ヶ月は毎日がお詫びの日々でした。患者様は私ではなく父の診療を期待していらしていたからです。辛い毎日が続きました。あまりの業務の大変さにひとり、横浜のホテルに泊まりこみになり、実家に預けた子供に会いに帰れるときは、父と過ごした町を歩くので涙が止まらず、見舞いに行くこともままならない自分の身の上が悲しくてたまりませんでした。そして自分の未熟さが悔しくて、皮膚科医としての成長を強く望んでいました。そのような時に救いの手を差し伸べて下さったのが渡辺知雄先生、能勢由紀子先生、河原由恵先生でした。ご自分の診療でお忙しいにも関わらず、診療を助けて下さろうとしてお声をかけて下さいました。本当にありがたかったです。能勢先生はその後自院を閉院された後、診療を助けて下さり折れそうになる私の気力を励まし、支えて下さいました。そして“お父上が自分にとっての初めてのオーベンで一生の恩師です”とおっしゃって下さり、実直に診療することの大切さを改めて教えてくださいました。私は目標とする方を身近に得たことで、頑張り抜けたのだと思っています。そして、そんな時に気づいたのは、長年父が拝見してきた患者様方が父の復帰を信じて私の診療に付き合ってくれていることでした。これも私を支えてくれた大きな柱となりました。



後列左より：看護師田島さん、看護師中西さん、筆者（菅原）
前列左より：能勢由紀子医師、菅原信院長、看護師小岩井さん

私は横浜市立大学に入局後、多くの病院に勤務させていただき、指導者に恵まれ、毛利忍先生、石井則久先生、川口博先生、杉田泰之先生、佐々木哲雄先生、山川有子先生には、父の闘病中も今も本当にお世話になっています。同門の小野田雅仁先生、廣門未知子先生、綾部原子先生にも度々ピンチを救われました。開業時には滝沢清宏先生、野村有子先生にご指導を賜りました。心より感謝と御礼を申し上げたいと思っています。おかげさまで父は復帰し頑張ってくれています。孤独に診療した時期があったからこそ、今、父と2人で診療できることの有難さを感じ、そして大きな指導力で私を導いてきてくれていることにまた感謝をしている日々です。

最後に当院の紹介ですが、現在事務6人、看護師7人がローテーションを組んで勤務してくれています。有り難いのは勤務してくださっているメンバーが思いやりのある方々ばかりだということです。患者様のために一生懸命な姿を見るたびに人の輪のつながりの大切さを知り、医療は看護の力があってこそ、と痛感させられます。当院は全身型NBUBとVTRACを導入しています。生物学的製剤が広がりを見せている今日この頃ですが、紫外線療法を希望される患者様も多く、お役に立てるよう今後も奮闘していく所存です。これからも先生方にご指導を賜れば幸いと存じます。

開院のご挨拶



林 理華

横浜馬車道 皮膚科・
ペインクリニック
(横浜市中区)

平成25年7月に横浜馬車道 皮膚科・ペインクリニックを開院いたしました。みなとみらい線馬車道駅から徒歩1分、横浜第二合同庁舎並びの「シャレル海岸通」というUR賃貸住宅の2階部分にございます。「海岸通団地」があった場所という表現の方が馴染みのある先生もいらっしゃると思います。現在クリニックがある場所には、以前海岸通団地という昭和30年代に建築された風情漂う団地がありました。北仲通再開発地域となったため団地がなくなり、将来的には近隣に横浜市役所が移転し、高層マンションも建築される予定になっています。海側に行くと赤レンガ倉庫やワールドポーターズ、みなとみらい地区があり、平日は修学旅行生、休日は観光客の方が多くいらっしゃるいわゆる「横浜らしい」場所です。

私は小学校から高校まで横浜雙葉学園に通い、指定校推薦で北里大学医学部に入学しました。受験らしい受験もせずのんびりと学生時代を過ごし、マイペースな人間になってしまいました。北里大学を平成13年に卒業し、西山茂夫先生、勝岡憲生先生の流れを汲む北里大学皮膚科学教室に入局しました。入局前の医局説明会で、当時の学生担当だった新井達先生から「楽をしたい人は来ないように」と厳しい言葉を言われました。それを知りつつあえて入局した大学での日々は、マイペースに生きていた私にとって言葉通りの「楽ではない日々」でした。尊敬すべき先輩方や同僚の中で鍛えていただき、北里大学で皮膚科学を学べたことは私にとってなによりもかけがえのない財産となっています。(旧) 国立横浜病院、鹿島労災病院、昭和大学藤が丘病院形成外科、聖路加国際病院へ出向させていただきました。聖路加国際病院勤務中に専門医を取得し、医局へご恩返しをすることもなく結婚を機に医局を離れました。無礼者の私ですが、聖路加国際病院衛藤光先生のご厚意で医局を離れた後も非常勤として勤務をさせていただきました。聖路加国際病院には常勤・非

常勤合せて8年間お世話になりました。

主人は麻酔科医です。当初は皮膚科単独での開業を考えておりました。夫婦間で開業の話を進めていく間に、主人から力を合わせて一緒にやっという言葉があり皮膚科と麻酔科(ペインクリニック)併設のクリニックになりました。

皮膚科とペインクリニックを繋ぐ疾患は、やはり帯状疱疹痛、帯状疱疹後神経痛です。開業から1年も経過していないですし明確なデータを出したわけではないのですが、帯状疱疹の疼痛に対し硬膜外ブロックや星状神経節ブロックを早期から併用すると帯状疱疹後神経痛への移行がかなり少ないように思えます。NSAIDsや三環形抗うつ薬の他にもプレガバリンやガバペンチン、トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠など薬剤療法の選択肢は増えつつありますが、神経ブロックも適応があれば急性期・亜急性期に積極的に行っていくべきであると実感しております。神経ブロック注射だけでもお願いしたいという患者様がいらっしゃれば、喜んで対応させていただきますので是非ご相談ください。

個人的には夫婦で一緒に仕事をするによって、家庭も仕事の延長になり夫婦間の揉め事が増えるのではないかと心配していました。多少の揉め事は増えましたが(笑)、職場での私の姿を見ているからか(見るに見かねてか)、家事や子どもの保育園の送り迎えなど以前より協力的になってくれたことは嬉しい変化でした。

医院継承でもなく開業地が今までの勤務先から離れており0からのスタートだったため、開院した直後は患者さんの数が少なくて不安になった日もありました。同じ中區で歯科を開業する父からは、焦らずに誠意をもって診察をすれば絶対に大丈夫だと言われていました。自分の信念を曲げず日々歯科診療にあたり、患者さんの信頼を得ている父の姿を幼少時より見ておりました。尊敬する父の言葉を信じて、開院以来誠意をもって日々の診療に携わっておりま

す。最近では患者さんの数も増えてきて、感謝の言葉をいただいたり、家族や職場の同僚からこのクリニックがいいからと勧められて来院したという方がいらっしゃったりすると開業医としてのやりがいを感じる次第です。

まだまだ若輩者ではありますが、主人と共にあらゆる世代の方の「皮膚と痛みのホームドクター」となるため日々精進しております。神奈川県皮膚科医学会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

